

自転車を取り巻く日本の今

これからは自転車の時代？

1980年代末、オランダが温暖化の対策のひとつとして自転車に着目し、91年に「自転車基本計画」を策定した。97年に国連によって「地球温暖化防止京都会議」が開催され、CO₂削減の目標が示され、それを踏まえて日本でも温暖化対策として自転車が注目されるようになった。98年の「全国総合開発計画」では、都市内交通としてもっとも効率的な移動手段として自転車が位置づけられ、自転車道のネットワーク整備が掲げられ、同じ年の「地球温暖化対策推進大綱」にも「安全かつ適正な自転車利用の促進」という項目が盛り込まれた。99年の道路審議会でも都市内交通手段としての自転車への転換の促進が宣言された。5km圏内ではもっとも効率がよく、健康にもよく、“環境にやさしい乗り物”。自転車は今、新たな局面を迎えている。

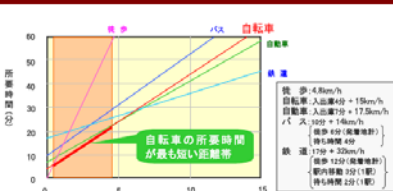
こんなにたくさんある自転車のメリット

自転車利用者

- ・5km圏内ではもっとも早く目的地にたどり着ける！
- ・健康にいい（心臓疾患・脳梗塞などに有効）
- ・スローライフ、季節を感じるなどレクリエーションに！
- ・重大な交通事故を回避できる（加害者にならない意味でも）
- ・渋滞や駐車場待ちなどのストレスの軽減
- ・維持費などの節約ができる

一般の乗用車の維持・管理費は1ヶ月でおよそ26000円！

5km圏内は自転車がもっとも合理的！



これは移動手段ごとの移動距離と所要時間を示した図。5km圏内では自転車がもっとも所要時間が短く、合理的な乗り物であることが分かる。

都市内交通手段として自転車はもっとも最適！

出典：国土交通省道路局『21世紀の自転車利用環境の実現を目指して』（平成15年6月）

商業施設

- ・駐車場が削減できる
- ・お客さんの滞留時間が増える（駐車料金を気にしなくてすむため）
- ・お客さんの来店回数が増える（自転車であらゆる立ち寄れるため）

商業施設の売り上げが増える！

地域・自治体

- ・排気ガス、騒音などの公害が減少する
- ・周辺の渋滞が緩和する
- ・重大な交通事故が減少する
- ・都市の構造が変わる（郊外型社会 中心市街地の活性化）

国

- ・CO₂が削減できる！
- ・化石燃料資源が節約できる

郊外に大きなショッピングセンターなどがある社会は自動車の利用者には便利だけど、高齢者や子供などの交通弱者には不便！

地球

- ・石油の輸入量が削減できる 貿易赤字が減少する！
- ・国の石油安全戦略に寄与する

『自転車利用促進のためのソフト施策』（著：古倉宗治、出版：ぎょうせい）より

自転車推進の取り組み

走行空間の分離



車道を色分け（金沢） 歩道を色分け（浅草） 自転車道を整備（名古屋）

道路空間の狭い日本ではなかなか自転車レーンの確保が困難だが、自転車の走行空間の確保のために、さまざまな工夫・取り組みが実施されている。

駐輪対策



歩道に駐輪場（名古屋）

平成19年1月に道路法施行令が一部改正され、道路管理者以外の主体でも、道路上に駐輪スペースを設置できるようになった。

ルールの周知



自転車免許制度（荒川区）

いくつかの地域では自転車免許制度が導入されている。講習会、筆記試験、実技講習などを経て、免許証が交付される。

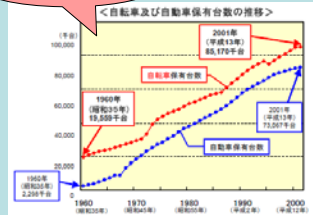
製作：東京工業大学 屋井研究室 瀬川進太 元岡宙樹

日本の自転車の現状

自転車利用者は増えている！

自転車は買い物や通勤、通学などの日常生活における交通手段として、国民生活の間でさまざまな用途に利用されている。性能や形状もマウンテンバイクのようなものから、ママチャリ、子供用自転車まで幅があり、自動車などと異なり運転免許制度の対象外にあることも手伝って、その利用者が幼児から高齢者まで幅広い年齢層に渡っている。

自転車利用者増加中！

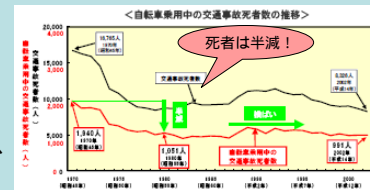


出典：(財)自転車産業振興協会『自転車統計要覧36版』（平成14年9月）
国土交通省道路局『道路統計年報2002』（平成14年度）

自転車は車道を走るのウソ？ ホント？

マイカーの普及とともに、自転車の交通事故による死者が急増した。1670年代には毎年1800人ほどが死亡している。そのため、違法ではあったが、自転車は次第に歩道を通行するようになった。この事実を受け、1970年6月、神奈川県警が横浜市と川崎市において「自転車の歩道通行可」を試験的に実施し、この頃から自転車利用者の死者数は減り始めた。

なかなか自転車走行空間の整備が進まない中、ついに1978年12月の道路交通法に「自転車の歩道通行可」が公式に盛り込まれることとなった。この時期、自転車利用者の死者数はおよそ1000人ほどで半減したと言える。この状況が現在に至るまで続いている。



出典：(財)交通事故総合分析センター『交通統計』

自転車はどこを走ればいいのか？

近年、自転車の対自動車の事故は減少していた一方で、対歩行者の事故が増加している。そのため、自転車の走行空間が再び、議論されるようになっている。



出典：(財)交通事故総合分析センター『交通事故統計年報』（平成7年度版、平成17年版）